化學工業日報

インドネシア特集　昭和興産インドネシア、潤滑油関連好調で業績安定

2025年10月15日

インドネシア特集（２０２５年）

堤功二　社長

昭和興産のインドネシア法人、昭和興産インドネシア（堤功二社長）は、グループのアジア各拠点と連携し、同国市場攻略を加速している。昨年度は主力の界面活性剤が堅調に推移し、潤滑油関連商材の販売も寄与して前年比２ケタの増収を達成。今期は化学品分野の伸び悩みがあるものの、新規案件の拡充で前期並みの業績を確保する見通しだ。食品や医療機器など新分野への展開を進め、事業基盤の強化を図っている。

同社は界面活性剤の輸入販売を軸に、エレクトロニクス部材や塗料原料を取り扱ってきた。しかし、今期については、消費者の低価格志向の拡大で主力化学品はここまでやや苦戦。その中で、国営石油会社プルタミナ向け潤滑油関連商材の販売が順調に推移し、さらにインドなど周辺諸国製品の積極的展開により新規顧客を獲得。樹脂分野ではＢ級グレード品をリサイクル原料として提案し、現地需要を取り込んだ。こうした新規営業活動が既存の主力ビジネスの不振を補い、業績の安定につなげている。

昭和興産は２０２６年１２月期を最終年度とする中期経営計画を進めている。営業戦略では「グローバル」と「サステナビリティー」を共通軸に据え、環境、モビリティー・情報電子、ライフサイエンス、インフラの４分野を重点領域に掲げる。海外拠点としてインドネシアのほか、タイ、中国（上海・広州）、ベトナムに拠点を構え、昨年は韓国にも進出。アジア各拠点間の連携を一層強化している。特にインドネシアでは国内の低コスト志向に応えるため、中国品の提案を積極化しているという。

今後は国産品優先政策を背景に、食品添加物や医療機器などの分野でローカル企業との取引拡大を目指す。

Copyright© 2025 The Chemical Daily Co., Ltd.